



明治天皇は神宮に維新を奉告され、新たな時代を開く国と民との繁栄と平安を御祈りになりました。【明治二年伊勢行幸絵巻】神宮徴古館蔵

明治の新たな国づくりとともに
新たな神宮大麻が誕生しました。
近現代の歴史と古来の信仰との融合。
神宮大麻を通して、古くて新しい
神宮崇敬の心を再確認しましょう。

特集

神宮大麻全国頒布 百五十周年

すめらみことのおほみこもちてあめのますひとらにあしたにゆふべに
天皇乃大命以弓天乃益人等尔朝尔夕尔
すめおほみかみのおほまへをつしみるまのをがましたまふとして
皇大御神乃大前乎慎敬比令拝給布止為氏
ことしよりはじめてかこきおほみしるしをあめのたのおほみからの
自今年始氏畏支大御霊乎天下乃人民乃
いへいへにもれおつることなくわがたまはむとす
家々爾漏落留事無久頒給波牟止須

神宮御霊奉行式祝詞(抜粋)

今年から数えて百五十年前の明治五年
四月一日、維新を遂げられた明治天皇の
思召しのもとに、皇大神宮の御垣内で神
宮御霊奉行式が執り行われました。

鎌倉時代から続いた御師の御祓大麻は
神宮域内での限定的な授与に制限され、
新たに天皇の大御心が込められた神宮大
麻が初めて奉製され、これが全国に頒布
されようとする始まりの祭儀が、天照大
御神の大御前で厳かに執り行われたので
した。

御祓大麻の全国普及

永きにわたる御師の活動により神宮へ
の信仰は全国津々浦々へ普及し、江戸時
代後期には全国の約九割にも及ぶ家々に
御師の御祓大麻が祭られていました。

しかしそれらは御師個人が国民個人の
求めに応じて個別の祈祷を行い奉製・授
与した私製大麻であり、多分に御師の営
利を目的としたものでもありました。

御師の廃絶

「神社の儀は国家の宗祀にて一人一家



神宮御聖奉行式が行われた皇大神宮御垣内。
古来、天皇の御祈りを捧げる祭祀が行われる聖
域です。（写真は勅使の奉仕による神嘗祭奉幣）



神宮大麻3種。国民の幸を願われる天皇陛下の
御祈りを込めた大麻として全国の家庭に届けるた
め、神宮から各地の神社を通じて頒布されます。

の私有にすべきに非ざるは勿論の事に
候」（国家の宗祀Ⅱ国家として尊び祭る
こと）とする明治政府は維新に際してこ
の御師の存続を認めず、御師による御祓
大麻の全国各地への配布は廃止となりま
した。

しかし、永きにわたり多くの国民の中
に培われた神宮への崇敬は政府も尊いも
のとして重んじ、明治天皇は新体制を立
てた神宮に新たな体裁の大麻を奉製し全
国に頒布すべしとの思召しを下されたの
でした。

ここに国家の神宮による、いわば官製
大麻としての神宮大麻が誕生します。

神宮大麻の誕生

新たな大麻には「皇大神宮御璽」との
朱印が鮮やかに捺され、そこには天照大
御神からの神勅のまにまに天皇が神宮に
捧げられる大御心、国安かれ民安かれと
の祈りを祝詞に託して祈り込め、神宮祭
祀の伝統に則り清浄が上にも清浄を期す
る厳格な祓いが修されます。

頒布大麻と授与大麻

御師の御祓大麻が国民の祈願に応じて
奉製されたのに対して、新たな神宮大麻
は天皇の御祈りを奉じて奉製されるもの
となりました。

御師の御祓大麻の性格を継承したのが
神楽殿で授与される角祓や剣祓などの授
与大麻です。明治から新たに始まる神宮

大麻Ⅱ頒布大麻と授与大麻との違いはこ
こに明らかに認められるでしょう。

神宮大麻の頒布

神宮大麻は明治・大正・昭和という近
代の歴史の中でその頒布制度が次々に変
わりました。

それは神宮大麻を誕生させた太政官や
神祇官といった政府の機構が次々に変化
したことから、信教自由や政教分離を掲げ
る政府にとって神宮大麻は宗教であるの
か否かという解釈の問題など、様々な要
因がありました。

しかし最終的には、神聖で尊い神宮大
麻の頒布は全国の神職が担うことこそが
相応しいとされ、昭和二年からは全国神
職会に頒布が委ねられました。

戦後は神社本庁に頒布が委ねられ、包
括下の神社を通じて神職や氏子によりそ
の地域の家々に頒布されています。



神宮大麻の奉製には清浄の徹底という神宮祭祀の
伝統が受け継がれ、神宮禰宜による厳粛な修祓によ
り神威が宿されます。（大麻修祓式）

神宮大麻の奉斎

全国の神社は神宮大麻と共にその神社の神札も頒布します。家庭ではそれが合わせてお祭りされることになります。

天皇陛下がお祭りになる神宮は日本国家全体の安寧を祈り、全国各地で祭られる神社は国家の安寧と共にその鎮座地域の安寧を祈ります。

この神宮の大麻と神社の神札を合わせてお祭りすることが、生活を支える基盤の安寧を祈ることになります。

高天原の神話では、天照大御神は多くの神々と共に働き、相談し、地上世界を守る御神徳を下されます。多くの神々もまた、天照大御神が不在では混乱し不安に陥ることが天の岩戸の神話に語られます。神宮大麻と神社の神札を合わせて家庭にお祭りすることで、神話のままに大きな御神徳を仰ぐことが叶います。

神勅・神宮・神宮大麻

天照大御神は地上に降る皇御孫命に三つの神勅を与えます。

天照大御神の子孫としてこの国を天地と共に永遠に治めること。八咫鏡を大御神の御鏡として丁重にお祭りすること。高天原の稲穂を地上に植え殖やし国民を養うこと。

この三つは、御歴代を経て現代の天皇陛下に至るまで代々最も大切にされる御



毎年、神宮大麻を頒布する始めに行われる大麻暦頒布始祭。神宮大宮司から神社本庁統理へ、神社本庁から全国神社へと神宮大麻が伝えられます。

勤めであり、現実に、この神勅が守られた証として、我が国は世界にも稀な美しくも逞しい歴史を今日に伝えているのです。

この国を治める天皇として天照大御神の御鏡に国民の安寧を御祈りになる聖域、それが神宮であり、その御祈りが神宮の祈り。

その神宮の祈りを込めた神宮大麻を全国の家庭でお祭りすることが、天照大御神の御神威を国中に、そして将来へと照り徹らせることになる。

神宮大麻全国頒布百五十周年にあたり、このような心を再確認する機会となれば、神宮大麻を通じて神人和楽、君民一体の清新な国づくりを、そして尽きるこのない永遠の我が国の発展を目指した、祖先の心が私たちの心にも満ちてくるのではないでしょうか。



神宮大麻は伊勢から全国津々浦々へ、そこに暮らす人々は伊勢へ伊勢へと。全国各地と伊勢との絆が、神宮大麻によって結ばれています。



全国津々浦々の多くの神社を包括する神社本庁。神話に始まる日本の心を尊重し、包括する神社を通して神宮大麻の全国頒布を担っています。